近愛文書 ⑥

おやさと研究所員
安井　幹夫　*Mikio Yasui*

（前号より「７仝　十三日午後五時前の指図に付て御願」続き）

と、をもへハなんてもない　これまてわからん事てれバ　さとしてもろたら　じきやとゆふ　とんな事さしす以てすれバ　何名あろふが　みんなよろふが　一ツの里てあつめてある　たつね一条　さしずにちかふたさしすあろふまい　おれとさとしの里い　とふもならん中に　人ゝのさとし　人ゝの心　ちよつとも　ちかわんよふにハ　しにくかろう　なに」（45 オ）

もしにくいやない　これまてをさめきたる所　ちからをそゑてをさめてあるから　おさまりてある　事情ハさしすと　をさめてある　一寸一時　是迄日々さつけ〳〵　日々とゆう　きたる所　一人やれ〳〵とおもふて　をさめきたる里をもつて　おさめるから　をさまりてある　とれからかゝるやろふと　ゆうよふなはなしなれと　里いつゝめにやな」（45 ウ）

ろふまい　ちゞめさゝにやならん　一時はやく　くわいぎにもかけにやならんと　ぜん〳〵さとしてある　道具〳〵だいふんはそんなりてある　日々かげなり日なたになり　とをてもつけかけた道ハ　つけにやならん　とれたけおもたとて　きゝわけなけりやとをもならん　こゝまて道かついてきたから　やつていくとをもふやろふ　月かたて」（46 オ）

は　はつれる　はつれてないか　日々のあたへてある　刻限事情さしすて　かんがへてみよ　まつごふた里かあろふが　心一ツとゆへバ　やさしい心もあれは　おそろし心もある　しらず〳〵の心もある　とんな事みせても　人の事のよふに　おもふている　その日かきり　あれバあれたけお　もへハそれまゝのもの　よい事ゆうのハ　おれかいこふと　いふやろふ　なれと」（46 ウ）

にかい事ハたれもゆいにくかろ　たれともゆわん　なれとさしすの里さいわかれバ　めん〳〵にみなわかるやろふ　あしたいこふか　きのふきたたけや　こしかけわけのよふに　おもふてふミかふれハ　とんととをもならん　よい事すれはよい里かまわる　あしきハ〳〵の里かまわる　よい事もきりがなけれハ　あしき事もきりかない　教」（47 オ）

会〳〵とゆうているのわ　世上の一寸のはしめかけた道　教会ハ世上いくつもあるやろふ　なになき　くさふかき所から　はしめた道　おれかしんや〳〵と　つうはりても　かんばりても　とをもならん　里いみゑねと　みな〳〵帳面につけてあるもおなじ事　月々年々　あまればかやす　たらねばもらを　へい」（47 ウ）

きんかんしよハ　ちやんとつく　それきゝわけ一つておさまりた　みなはなしてきゝわけねば　みなくとき〳〵はかりといふ

「おさしづ書」におけるの正文の割書は「明治二十五年一月十三日　午後五時半　前夜おさしづに基づき本席一条の件願」となっている。この写しでは、「午後五時前の指図ニ付て御願」とあるので、そこに時刻などの相違をみるのである。正文と対照するとき、６と同様に、本文における脱落個所がいくつかみられる。また誤字と思われるものもあり、それによって意味が変わってしまう個所がある。

その１例を挙げてみると、45 オの中ごろに「おれとさとしの里　とふもならん中に」とあるが、正文には「なれどそもへの理はどうもならん」と記されている。すなわち、この「なれど」はその前の文節「ちかふたさしすあろふまい」を受けての接続詞であるから、「俺と」では意味が通じない。

続いて翻刻を試みる。次の写しは年代がさかのぼっており、しかも当該の正文は不明である。

ここまで、24 年 11 月 15 日、24 年 12 月 19 日、そして 25 年１月 19 日と順序よく記されているが、次いで４、25 年４月 28 日ときて、５は、25 年１月（25/1/12）、６は、25 年１月 12 日夜、７は 25 年１月 13 日となっている。ところが、８になると、23 年６月 12 日という日付になるが、探し方が不十分なのであろうか。それに該当する正文の「おさしづ」を探すことができなかった。日付の年が違うのか。あるいは月が違うのか。さらに日が異なるのか。あるいは割書はどうだろう。さらに本文中の特別な言葉、この場合、「火鉢」という言葉を手がかりとしたが、いずれも、その正文を求めることができなかった。

ただ、その写しをみていくとき、どこか不十分という印象を覚えるのである。

８　明治廿三年六月十二日　御席運ふ場所　御席運ふ後より御はなし

さあ〳〵火鉢ハすつきりいらん　是迄しらん間ハ見ゆるしてきた　なんせき」（48 オ）

事情しゆよふさとす所に　なんかてけやせん　はこふ事情にたはこなそ　一ツもすわさん　みだれてならん　そのばはしめるため　なんかつたへて　どゝ里つだして　はこんている処　すつきりする処　なりたちといふ　はじめる処、すつきりはこんでしまふ　そうしてゆつくりするがよい　はこぶ間に火鉢ハいらん　まへの道とかわつてある　いふハみくるしいてならんけ違と」（48 ウ）

いふよふハ　しやんしてみるがよい

続いて記されている写しも、年月日からだけの照合では、それに相当する正文がみあたらない。とりあえず、割書だけを列挙しておくことにする。

９　七月八日　本席様声さつはり　かすむニ付御願
10　七月十三日　昨夜の御指図ヨリ御本席様の身上御願
11　仝日　会長様身上御願
12　仝日　御授け運ふ事情御願

この後は、１丁分の白紙頁があり、改めて明治廿六年十月十七日の「おさしづ」が記される。８～12 のおさしづ写しについては、もう少し調べてみたいと考えている。ただこの場合、この写しの「おさしづ」が、正文に採用されていない可能性もあることも否定できない。なお調査が必要であろう。